

原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブ
復興対策基礎基盤研究プログラム
事後評価総合所見

評価の概要		
研究課題名：原子力施設の地震・津波リスクおよび放射線の健康リスクに関する専門家と市民のための熟議の社会実験研究 研究代表者（研究機関名）：土屋 智子（東京大学） 再委託先研究責任者（研究機関名）：上田 昌史（特定非営利活動法人 市民科学研究室） 研究期間及び研究費：平成24年度～平成26年度（3年計画） 57百万円		
項 目	要 約	
1. 研究の概要	科学的不確実性下での熟慮型リスク分析の手法を提案するため、地震・津波リスクおよび放射線の健康リスクに関する専門家間の熟議の場として共有事実の確認を行い、不確実性の諸特性、科学的判断と価値判断の差異、市民の判断の特徴などを明らかにした。加えて、専門家間の熟議で得られた情報を提供し、市民がリスクに対して能動的に対処するためのリスク情報プラットフォームを構築することによって、福島県の原子力事故被災地域の復興に貢献することを目的として実施された	
2. 総合評価	A	研究対象が限定的ではあるが、具体的事象について社会実験を行い、専門家間の認識の違いを可視化していることは評価できる。今後、研究成果を積極的に外部に発表し社会に還元することを期待する。 S) 極めて優れた成果が挙げられている A) 優れた成果が挙げられている B) 一部を除き、相応の成果が挙げられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんど挙げられていない